

<第三種郵便物認可>

Fuji Sankei Business

人・story

おがわじゅんこ
小川 順子さん

(WINグローバル会長)

女性の視点でホンネの 原子力対話を進める

原子力発電や放射線の実務に携わる世界六十カ国、二千人以上の女性からなる非政府組織(NGO)「WIN(ウィン)グローバル」の四代目会長として本格的に活動した。今年五月の就任と同時に会報を再開。一日には台湾・台北でWIN大賞を授与した。

十一月十日にはWINジャパン会長として、九州電力の玄海原子力発電所を控える佐賀・唐津で八回目の女性交流会を開く。事故や不祥事が絶えない原子力発電について、一般の消費者とホンネで話し合う。女性には科学技術や巨大産業に対する特有の男房、感じ方が

ある。女性や若年層に対しては、女性が対応するほうが理解し易いのではないか。

旧ソ連のチェルノブイリ原子力発電所が爆発の事故(一九八六年)をきっかけに、欧州の有識者の間でそんな思いが募り、九三年二月、女性同士の世界的なネットワーク組織が誕生した。二〇〇三年四月には日本の組織も設立された。



▲プロフィール▼ 慶応大文
卒。日本・エグリア・フュエ
ル

ル燃料部広報担当副部長を経て、98年10月日本原子力発電広報部次長、03年7月から同調査役(副部長)。原子力委員市民参加懇談会専門委員、アフリカ原子力協力フォーラム広報連絡グループ委員なども務める。52歳。神奈川県出身。

てしまった。「(設備の維持管理や保守点検に)心配りしない」と、機械は反乱を起す。手抜きすると、機械は正直に壊れる。ことを改めて思い知らされた。

しかも、「理直なことに、アメリカの同種事故の教訓が生かされなかった。これまでに何回か気が付くタイミングがあったはずなのに」と悔しさをにじませる。「またスタート地点からの出直しです」。広報という終わりのない、燃気のいる仕事に再び立ち向かう。

WINジャパンは翌十日、いち早く英語3局事故のステートメントを発表し、WINグローバルの本ホームページに載せた。

慣例に従えば、WIN会長の任期は二回四年。ヨーロッパ以外からの就任は初めて。会長経験者から選出された。就任要請の国際電話は、まさに「驚天動地」。「当意即妙の英語力に自信がないし、お断りしたが、「言葉の問題ではない」と断られたとか。

中国では、経済成長に必要な電力供給の安定確保、とりわけ大規模な原子力発電所の早期建設に迫られている。WINグローバルの会長としては、「中国をどう引き込むか。正式参加への道を水面下で模索し始めている。」 (倉野(三))

【座右の銘】いつも明るく前向きに

【趣味】日本舞踊

【健康法】正心調息法

【行きつけの店】十八番(神奈川県横浜須賀町久里浜)

【好きな作家】渡辺淳一

【愛用車】日産「セレナ」

次回はオフィス空間コンサルタンの伊藤美保(いとらみほ)さんです。